

令和6年度 第2回伊勢原市食育推進会議 議事録

【開催日時】 令和6年11月14日（木） 14時00分～15時30分

【開催場所】 伊勢原市役所 全員協議会室

【出席者】 食育推進連絡会議委員11名・事務局10名

【公開可否】 公開

【傍聴者数】 0人

【配付資料】

- ・会議次第
- ・資料1 伊勢原市版食事バランスガイド（案）
- ・資料2 伊勢原市民の食育に関する意識調査
- ・資料3 いせはら健康アプリ事業案内ちらし
- ・資料4 令和5～6年度高齢者の通いの場（一体的実施事業）等における食育事業
- ・資料5 令和6年度伊勢原市食育料理コンテスト実施状況
- ・資料6 和食文化普及ちらし（案）

3 議事

（会長）

それでは、次第に沿って進めたいと思います。事務局から、ご説明をお願いいたします。

（事務局）

議事（1）「伊勢原市版食事バランスガイド（案）」について、資料1をご覧ください。

昨年度からこの会議の中で委員の皆様よりアイデアを頂いておりました、伊勢原の地産地消とバランスよく食事をとることを目的に、国の食事バランスガイドが、伊勢原では有名なコマの形をしているという共通点から、伊勢原市版食事バランスガイドのパンフレットを作成しようという企画です。このバランスガイドは、JA 湘南様、県立保健福祉大学の栄養士養成課程の学生の皆様、伊勢原市食生活改善推進団体の皆様や市農業振興課、清掃リサイクル課の協力の下、調整しまして、今回お配りしたような案となっております、今年度中に作成・配布の予定になっております。

まず表紙のコマのところに伊勢原市のゆるキャラ、クルリンを載せ、学生の皆さんに伊勢原産食材を活用したレシピを作成していただきました。

中面左側の農産物カレンダーは、JA 湘南様と市農業振興課の協力を得て作成しました。こちらに掲載されている地場産野菜を使った1品料理ということで、県立保健福祉大学の栄養士養成課程の学生の皆様や伊勢原市食生活改善推進団体の皆様に献立を作成いただき、表紙や裏表紙に掲載しております。このレシピについてはQRコードを読み取りますと、レシピや動画が掲載された伊勢原市の食育ホームページにとぶような構成となっております。中面の右側には、地産地消を目的に市主催で実施している食育料理コンテストの受賞者のレシピを掲載しております。また、その下には、SDGsを意識し持続可能な食についてということで、市清掃リサイクル課による、食品ロスを題材にした内容を掲載しております。

伊勢原市版食事バランスガイドの配布についてですが、以前より委員の皆様からご意見をいただいていたように、中学生ぐらいまでの保護者の方を中心に想定をしており、加えて一般市民の方にもイベント等で配布しようと考えています。今年度中に作成いたしますので、最終校正に入る予定です。内容についてのご意見や配布先活用方法など、ぜひご意見いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(会長)

配布先や利用方法、編集等、ご意見はございますか。

(委員)

配布先はどこになりますか。

(事務局)

保育園・幼稚園、小・中学校の保護者向けが主になります。その他、イベント、食生活改善推進団体の活動等で配布に加え、ホームページに掲載し、ダウンロードをできるような形にしていこうと考えています。

(委員)

非常に整っていて良いと思いました。可能であれば食品ロスに関する内容の部分に1点付け加えて欲しいです。食品ロスとは直接関係ないのですが、日本の食料自給率がここ数年カロリーベースで40%程と低いにもかかわらず、食品ロスがあるという状況なので、食品ロスと共に日本の食料自給率について掲載することで、より食のありがたみが出せるのではと感じました。

(会長)

ご意見をありがとうございます。現在、食料自給率は40%を切っておりますので、可能であれば調整をお願いします。

(委員)

市のメールでこちらにも掲載のレシピが配信され、簡単そうだったのでやってみようと思ったのですが、レシピの分量で、黒ゴマ大さじ2分の1という表記が、記号ではなく文字だったため、大さじ2と読み間違えてしまいそうになりました。見てすぐわかるような表記が良いのではないかと思います。

(事務局)

レシピの記載に関してですが、ホームページに掲載する際は、視覚障害のある方が音声で聞くということを想定し、記号表記ではなく文字表記にしなければいけないというルールに従って作成しています。

(委員)

そのようなルールであれば、2分の1ではなく、半分というような表記の方が分かりやすいと思います。

(会長)

ありがとうございます、レシピの表記ですね。分かりやすく、見ても誤解のないような表示ができるようご検討をお願いいたします。

(委員)

掲載される料理コンテスト入賞者レシピについて、保護者目線になりますが、夏休みに保護者と一緒に作った小・中学生が多いと思いますので、どのような結果になったか保護者として知りたいのではないかと思います。この市長賞の作品は上位賞だと思うので、載せないで欲しいという方もいるかもしれませんが、お名前を載せてはどうかと思いました。また、ホームページにも掲載されるのかもしれない

ませんが、配布方法ですが、小・中学校はマチコミというアプリを使って、保護者へ学校だよりや最近では PTA だよりもデータで送っています。紙で配付してもランドセルやリュックの中にしまい込んでしまい、後になって見つかることがよくありますので、保護者のスマートフォンに直接届くアプリなどを活用し、紙の配布と同時にお送りいただくと、より目にとまるのではないかなと思いました。

(事務局)

ありがとうございます。配布方法については、学校と調整できればと思います。市長賞受賞者のお名前は、市広報など PR できる場所では、承諾を得て学校名とお名前を載せています。

(委員)

食事バランスガイドの配布は紙でも良いとは思いますが、最近、幼稚園の場合は紙を使わず、PDF にしてスマートフォンやタブレットで見られるような形で進めている点もご理解いただければと思います。

(会長)

先ほどのアプリと共に、配布方法を、より保護者の手元に届き実効性があるようにということですね。

(事務局)

配布方法については、またご相談できればと思います。

(会長)

次の報告検討事項に移ります。それでは事務局からお願いいたします。

(事務局)

議事(2)「伊勢原市民の食育に関する意識調査」について報告をさせていただきます。資料2をご覧ください。

来年度は第4次食育推進計画が中間評価の年になるため、先月20歳以上の市民3000人に対して、食育に関するアンケート調査を実施しました。現在、4割ほどの回収率で、回収中の状況です。前回の会議で、皆様に見ていただき、70問の設問はちょっと多いのではないかというご意見を頂き、50問に減らしました。今回の調査は、食育に特化した内容で実施できるため、新たに食環境整備という視点を加え、食へのアクセス、買い物の不便さや苦勞についての調査をしております。

また、児童期から思春期にあたる時期の食育が、大人になってからの食生活にどのような影響を及ぼしているかという視点で、問33を新たに加えました。

調査の集計方法では、全ての結果について基本項目である年齢、性別、BMI、居住の地区、職業とクロス集計をしていく予定です。また庁内の管理栄養士や保健師など専門職とも相談をして、問34から36の歯の状態、問44の経済的な暮らし向きについて、問48の地域とのつながりについても全ての項目とクロス集計をする予定です。

次回の会議に間に合えば、まずは単純集計の結果等をお示しできればと考えております。

(会長)

伊勢原市民の食育に関する意識調査についてご意見等いただけますでしょうか。

(委員)

暮らし向きなど、聞きにくいことを今回聞いているのは、とてもよろしいかと思います。歯科検診等の受診率の向上にもつながるよう、集計に加えていただいていると思いますので、ありがたいことだと思います。

(会長)

買い物の不便さや苦勞についての設問が入っているのは、伊勢原市の特徴的なものかなと思います。現在全国的な傾向として、食育や健康増進の計画だけでなく、都市計画的なものについても、買い物をどのように支援していくかが非常に重要になっています。人口減少が進んでいくと、コンパクトシティやスマートシティと言うように、人が集約されていく方向になります。栄養の分野について、フレイル予防やメタボ予防という栄養の知識を普及しても、その予防のために効果的な食品をどのように手に入れるのかという手段がない状況では机上の空論になってしまいます。県内でも、健康面だけでなく環境面の整備と併せて実証していこうとしている市がいくつもあります。伊勢原市はそこまで人口減少が深刻ではないかもしれないのですが、私が所属している県立保健福祉大学は横須賀市にあり、県内でも三浦半島の人口減少は大きく、どのように住民の健康を支えていくかは大きな問題になっています。県央では、大和市も便利の良い場所ですが、コミュニティーバスが通っていない所には低栄養の人が多い傾向があるという研究結果が出ています。国も食環境に力を入れており、健康部門だけではなく様々な部門と手を組んで進めるよう言われており、金融機関等と手を組んでいるような事例もあります。

今回の伊勢原市の食育意識調査は非常に大きな動きでもあり、国が重視している設問も積極的に入れられているので、私としては色々なものが網羅されているので良いかと思います。

(委員)

この調査は標準となる基準があり、それを元に設問を選んでいるのでしょうか。例えば、お酒をどれくらい飲むかという設問がありますが、お酒は少し飲めば体に良く、沢山飲めば毒になるという情報もある一方、酒は少しでも毒だという情報もあり、情報がたくさんある中で、伊勢原市としての標準はどうするのかと思いました。

(事務局)

比較するものとしては、ほぼ同じような内容の設問をしている3年前の調査との比較が可能です。今回新たに追加した項目などは、令和5年度の国の食育意識調査の項目を参考にしておりますので、伊勢原市と国の比較ができるかと思います。

(委員)

伊勢原市が3年前に調査した結果と今年度調査した結果を比較したときに、個人の結果の判断ができるものなのかが疑問でした。

(事務局)

3年前と同一の対象者へのアンケートではなく、無作為抽出アンケートになるので、あくまでも市全体の傾向として考えています。他に比較をするとすると、国民健康栄養調査等を元に、全国の標準的な割合というのは出ているので、伊勢原市と国を比較することで傾向をみることはできます。

(委員)

傾向の比較であって、個人の結果が良くなった、悪くなったではないのですね。

(会長)

市町村のこのような調査項目は、国が決められているわけではありませんが、国の第4次食育推進基本計画があり、それを元に各都道府県や市町村が食育計画を立てていきます。国の第4次食育推進基本計画は健康増進計画と連動し、また国民健康栄養調査などから導き出されたエビデンスを元に策定されており、いわゆる社会疫学を基礎としています。そのような国の計画や市町村独自の課題を踏まえながら、アンケート等で調査し、計画・実施・評価とPDCAを回していきます。市の変化については、同規模市

町村や国・県と比較し、そして次の課題を認識し、計画に落とし込むというサイクルになります。市によってアレンジを加え変化や傾向を見て、今後の方向性を判断していくという流れが基本になります。

(委員)

今回のアンケートに反映できませんでしたが、アンケートは普及啓発にもなるのではと思っています。例えば問20で「あなたは朝食・昼食・夕食に、主食・主菜・副菜の揃った食事をしていますか」という質問で、主食・主菜・副菜を理解していない人もいますので、次の設問の前に理解していない人に向けて、「あなたは伊勢原市食事バランスガイドを知っていますか」という質問と、ホームページへの誘導をするなど、次回作成の際にはそういう視点を入れてはいかがでしょうか。

(会長)

ありがとうございます。ご検討いただければと思います。アンケートは客観的なものを把握する事も大事ですが、仮説を検証するために実施することもできます。バランスガイドみたいなものを普及させたいという意思があれば、それを入れるということは良いのではと思います。4市の食育に関わっていますが、半分は食事バランスガイドのことがアンケートに入っていたように思います。

ありがとうございます。

次の議事(3) ICTを活用した食育として、「いせはら健康アプリ事業」について報告させていただきます。

(事務局)

ICTを活用した食育として「いせはら健康アプリ事業」について報告をさせていただきます。資料3をご覧ください。

昨年度より、健康に関するアプリを活用して生活習慣改善をめざす「いせはら健康アプリ事業」を実施しており、市の総合計画の中の重点事業として位置づけております。3つのアプリを、市在住・在勤者の方へ無料で提供し活用していただくという内容で、広報やLINE、市の健診結果による通知、工業団地などの事業所を回りPRしているところですが、集客に苦戦をしているような状況です。

これら3つのアプリは、組み合わせが自由で、全て無料で使うことができ、対象者は働き盛り世代を想定しております。ぜひPRできるような場や関係機関があれば紹介させていただきたいというご相談と、このようなアプリ等ICTを活用した食育について、健康づくりも含めて、今後魅力的な内容にしていくため、何かご意見等いただければと思います。

(会長)

ありがとうございます。ぜひ活用のためご意見をお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

(委員)

先ほどもお伝えしました学校の保護者向けのマチコミというアプリで、市の健康アプリ事業のお知らせとして配信してはどうかと思いました。また、健康が気になる方は病院やクリニック、歯科医院等に行く機会があると思いますので、市内の医療機関等にチラシを貼って周知すれば、ご覧になる方が多いのではないかと思います。

(会長)

アプリで配信するという点についてはいかがでしょうか。

(委員)

学校としては、マチコミは学校からのもれがあってはいけない親がキャッチすべき情報を流すツール

だと思っています。アプリ事業のように、選択性のある情報を流すと、親もマチコミからの情報を学校からの重要な情報と思わなくなり、見なくなるという習慣が出来るのが怖いと思っています。このような理由から、学校内でも、教員が何となくマチコミに流そうとしている情報は、配信を許可しないケースもあります。

(会長)

貴重なご意見ありがとうございます。学校の保護者向けについては、PTAの会議など保護者が集まっているような所でこのようなPRするのも1つかと思いました。とても良い取組ですので、定員に至らない状況はもったいないと思います。医療機関内でPRするということについてですが、事業として尿検査を市で行うために、医師会などの関係機関と調整が必要です。

(委員)

保護者へのお知らせについてですが、年3回市PTA連絡協議会を行っていますが、例えばそこでPRしていただく時間や、データをいただければPTA役員内で流してください、ということができますのでご協力できばと思います。

(事務局)

ありがとうございます。ぜひお願いできればと思います。

(委員)

尿検査のできるアプリについてですが、幼稚園でも尿検査を実施しており、3歳児の場合まだおむつをしていて採尿できないことがあります。このようなアプリで、ご家庭で採尿・検査ができるようなアプリがあると良いなと思いました。

(委員)

保育園の尿検査は4～5歳児が行います。ただ4歳児でもおむつをしているお友達もいるので、保護者からどうやって採尿したら良いのかという質問はあります。

(事務局)

尿検査事業の担当に、伝えます。

(会長)

幼稚園などで、保護者の方にこのようなアプリ事業のチラシを配っていただくことは可能でしょうか。

(委員)

はい。

(委員)

利用率アップという視点でみると、市の中で様々な部署が色々な助成等を行っていると思いますが、各々のチラシに「伊勢原市の助成一覧」のような情報を入れると、手に取った人たちが、こんな助成もあるのか把握できるので、庁内で協力して集約するのも良いのではと思いました。

(会長)

伊勢原市の食育推進会議は関係各課の皆さんが同席していますので、こういった意見を聞いていただけていますので、検討がしやすいかと思います。

では次の報告・検討事項について事務局からお願いいたします。

(事務局)

議事(4)高齢者の通いの場での食育について、現在、市内各地域で高齢者の通いの場を実施しており、昨年度と今年度の状況をまとめたものが資料4になります。市に5つある地域包括支援センターが

企画し、連携しながら実施しており、我々管理栄養士が各地域に出向き実施しているものです。地域によって使える会場自体が少ない、調理実習ができる施設が無いなど課題もあるため、今後のいわゆる出前で行う高齢者向けの講座を企画していく際は、回数の少ないところやそれぞれの内容について、工夫した企画でできればと考えているところです。特に西エリアについては、機会を増やしていく必要がありそうです。

今後の高齢者のフレイル予防のための食育について、通える場所での実施や展開も含めご意見をいただければと思います。

(委員)

高齢者の通いの場での食育については、現在、伊勢原市食生活改善推進団体は関わってはいないので、事前に日程や人数が分かれば、ぜひ関わらせていただければと思っています。

(会長)

前向きなご意見ありがとうございます。

(委員)

民生委員として地域のミニサロンに参加しております。ミニサロンの年間事業の中で、管理栄養士によるフレイル予防の食育や、歯科衛生士の講話などは入れるようにしております。今、ミニサロンを運営していて一番問題なのは、参加者が減っているということです。以前は歩いて来ていた方が、通えなくなったとか、今まで送迎していた方が高齢になって、他の方を乗せるのが難しくなるなど、通えないという問題で参加者が減っています。そういった意味でも、フレイルという言葉がだんだん浸透してきていると思います。

(会長)

やはり送迎や距離などの問題で、なかなか通えなくなっている方もいらっしゃるということですので、様々な拠点やその方のお住まいの近くでできればと思いますので、また会場の調整をするなどして拠点が増えてくると良いかと思います。

ありがとうございます。それでは次の報告事項について事務局からお願いいたします。

(事務局)

それでは、議事(5)報告事項として資料5の「令和6年度伊勢原市食育料理コンテスト実施状況」について報告させていただきます。

この会議でもご意見をいただきながら企画運営しております料理コンテストですが、現在、審査中の状況ですので、実施状況を報告させていただきます。このコンテストは今回、小学生は10回目の実施、中学・高校生は8回目の実施になります。地産地消の普及を目的に、地場産食材を使った、小学生は朝食レシピ、中学・高校生はお弁当のレシピを募集しました。

小学校の部は、昨年度423点から今年度503点と増え、3部門合計で1764点と、前年度の1667点から増加しております。12月6日(金)に表彰式を中央公民館展示ホールで行う予定で、市長と湘南農業協同組合代表理事組合長様より表彰状と記念品、また各入賞者には湘南農業協同組合より新米の授与を予定しております。

続きまして、資料6の「和食文化普及ちらし(案)」について、報告させていただきます。

市総合事業の重点事業に、和食文化継承のための食育活動があげられており、昨年度はこの会議の中で話題にあがりましたお箸の文化をテーマに、小中学校教員・栄養教諭向けの研修会や食生活改善推進員向け研修会を開催しました。また日本型食生活について、リーフレットを県立高校2校の生徒全員に

配布いたしました。

今年度は成人向けに普及をしようということで、一般の方向けの講演会の企画と合わせ、こちらの和食文化普及リーフレット配布を考えております。

表面は和食に関する自己チェックで、裏面は伊勢原市食生活改善推進団体の皆さんが作成した、伊勢原の郷土料理の食材ということで、お豆腐を使った2品を掲載しました。

こちらのちらしについては、ぜひ完成後は各関係機関で配布をすすめてまいりたいと思いますので、引き続き、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

(会長)

ただいま報告がありましたがご意見などいただけましたらと思います。料理コンテストでは全体の応募が増えているということで、ご協力をいただきまして本当にありがとうございます。今後も引き続き推進をお願いします。

(委員)

料理コンテストですが、これまで2～3回小学生の審査に携わらせていただいているのですが、年々作品のレベルが上がっている実感があります。保護者の方も一緒に取り組んでいる様子も見えますが、一緒に行くことも大きな効果ではないかと思っています。子供達でできるものと、お手伝いが必要なものがあるでしょうが、こういったコンテストを通じて、ご家庭の中で食育について自然とお互い共有できる機会が持てることは、とても素晴らしいことだと思いました。伊勢原市版食事バランスガイドを見ると、より身近に感じると思いますので、地場産の食材で何か作ってみようとする多くの人が思ってくれたら、このコンテストの大きな効果の一つだと実感しております。ぜひ、また我々としても、このコンテストを続けていけるように準備をしていきたいと思っています。

(会長)

ありがとうございます、今後ご協力よろしくお願いいたします。和食文化普及ちらしですが、配布先につきまして大人向けにということですが、中身についてのご意見や、配布にご協力いただける関係機関はございますか。

(委員)

和食のチラシに関しましては、毎年2月に行っている公民館まつりにおいて、各公民館に食生活改善推進団体のブースを設け配布できますので、健康づくり課とすすめていければと思います。

(委員)

こちらのチラシについてですが、農協に女性部という組織がありますので、伊勢原市の方たちへ周知・配布が可能だと思いますのでご協力できると思います。料理コンテストについてですが、昨年より応募点数が増えまして、学校のご協力もあつてのことだと思っておりますが、昨年に比べて何か違う募集の仕方を行ったのでしょうか。自然に応募が増えているのであれば、食育に関する事業が浸透してきているのかなと思います。

(事務局)

小学校については先生方が夏休みの宿題として扱ってくださって、希望する児童のみ提出するのではなく、全員が提出する宿題にするクラスが増えてきています。市内の県立高校につきましては、高校の定員が増えたことで、自然増という状況でした。子供の数は減ってきているので、今後、応募点数はだんだん減ってくるのかなと想定はしております。

(委員)

和食文化普及リーフレットですが、先日学校の給食を子どもたちと一緒に食べる機会がありました。私のグループは5～6人だったのですが、その中に2人、豆腐が大嫌いなお子さんがいて「どうして」と聞くと、「味が苦手」とのことでした。繊細な味覚をお持ちなのではないかと思ったのですが、このレシピの豆腐の伊達巻きなどは、給食には難しいかもしれないのですが、普及できると良いなと思いました。

(会長)

食文化は重要ですが、食育として重点的に取り組んでいかないと、実行できないことだと思いますので、引き続き推進していただけると良いかと思います。

では関係各課の皆様、本日の会議の内容を踏まえまして一言ずつよろしくお願ひします。

(子育て支援課)

私たちは乳幼児を主に、妊娠・出産をされる産前・産後のお母さんやその保護者の支援に当たっています。食育については、横断的に人口推移等も踏まえながら考えていく必要がありますので、全庁的に協議していますが、最近の妊産婦の状況としましては、父親の事業参加が増え、興味深く思っております。特に離乳食など食に関して、母親同様父親もとても積極的に関心を持っていらっしゃるがあります。例えば親自身が、学童期に食育料理コンテストなどを通して食に関心があったご経験があると、大人になり子供を育てる時期になった時に、教室への参加にもつながるのではと思います。そのような認識を持ち、各ライフステージで食育についてお伝えしながら、産前・産後のサポートについても当たっていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

(子ども育成課)

本日は様々なお話を聞かせていただきありがとうございます。子ども育成課は保育園・幼稚園・こども園などを担当する課で、私たち栄養士の業務は、公立の保育園の給食を作成・運営していくことが主です。食文化など情報発信については、ICT化が進んでいるということ意識していますが、もっと活用し保護者を中心に様々な情報を伝え、各家庭での食育に繋げていけたらいいなと思いました。まず市としては、園へ配布しておりますので、園から保護者に情報提供していただけるようご協力をしていただければとありがたいです。これからも情報の作成や集約に力を入れていきたいと思います。

(学校教育課)

本日は貴重なご意見をありがとうございました。学校教育課は小・中学校の給食担当でして、和食ということでは、11月11日は箸の日ですので、今回私が受け持っている学校では校内放送で今日は箸の日と伝えながら、低学年には直接教室に行って指導しました。まだ上手に箸を持ってない児童がいますので、根気強く箸について伝えていきたいと思います。また、食事バランスガイドに出ているいせはら地ミルクですが、今年度提供の申し出がありまして、3校の給食にシチューで使用しました。来年度も2～3校ずつですが、順次使用予定で、6年間の小学校生活で、1回はいせはら地ミルクを味わっていただきたいという計画で進んでいるところです。

(教育指導課)

本当に伊勢原市の食育の取組は良いなと感じながら、本日もうかがってました。健康づくり課と協力しながらすすめています。特に食育料理コンテストは、チラシやアプリ、教科書で学ぶ食育と比べ、実際に作って体験するということをしていますので、食育の推進という面から、とても良い取組をしているなと思います。

(介護高齢課)

高齢者支援ということで、元気高齢者から虚弱の方、または介護を受ける方と幅広く対応させていただいておりますが、日々高齢者は食事が重要だという思いであります。特にフレイルについては、これが進むと要介護という状態を引き起こします。私の家族が要介護3ですが、自宅で介護をしながら仕事をしておりますと、早く簡単にできて栄養価の高いもの食べさせるかということのを思いながら、高齢者になって栄養バランスの良い食事を日常にするのは非常に難しいとも感じています。小さい頃からの食育、また中年期の栄養状態と筋肉の維持や疾病管理ができるかどうかで、高齢になってから元気に過ごせるかが左右されるので、これらは課題だと思います。高齢部門では管理栄養士さんの協力を得ながら地域で行っておりますので、今後も協力しながら進めていきたいと思っております。

(農業振興課)

食育を通じて農業に関心を持っていただくために、伊勢原市では水稲やみかん狩り、みかんの木オーナー制度などの農業体験ができる機会があります。また、先ほども学校教育課でお話しがありましたが、伊勢原の3つの酪農家さんで作ったいせはら地ミルクをここ数年発売していただき、今年給食に使わせていただきました。今後も児童・生徒さんに向けて、発信してまいりたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

(会長)

ありがとうございます。それぞれご意見をいただきまして参考になりました。

本日は委員の皆様から活発なご意見をいただきまして感謝申し上げます。私も何市かこういう会議に出席しておりますが、伊勢原市はご意見を活発に頂きいつも感心するのですが、その理由が食育推進会議を健康増進計画と別の会議に位置づけていることも1つかと感じています。食育単独で行っている市は必ずしも多くないですし、特に伊勢原市さんは農業も盛んですので、独自のカラーを出しやすいかと思っております。また料理コンテストの中で応募数が増えているのは、学校の協力も強いとのこと、教育部門との連携が素晴らしいと感じております。やはり食は命に通じ、また生活そのもので、陰の立て役者のようなところもあるのですが、生涯とても重要なことでもありますから、ここにきっちり光を当て、評価し、横断的に考えていくのは非常に重要なことと思っています。高齢者のフレイルに関しても同じことが言えまして、先ほどおっしゃられていたように、高齢期になってからではなくその前からが重要で、中高年の時期の影響が大きく、中高年の時期は若い時期が影響しているということで、こういう会議の場で皆様に横断的に活発なご意見をいただいて、食育推進会議が良い形になり得ているということ、大変感謝申し上げます。本日はありがとうございます。それでは、議事を終了いたします。

4 その他

(事務局)

次回の会議のご連絡をさせていただきます。年度末のお忙しい時期に大変恐縮なのですが、3月13日(木)13:30~15:00で、会場は伊勢原市役所内の2階の2C会議室を予定しております。どうぞよろしくお願い致します。

5 閉会

(副会長)

第2回伊勢原市食育推進会議を終了とさせていただきます。